

目 次

はじめに

序 章 「政治」と政治学 I

- 1 「政治」とは何か…………… 1
- 2 政治学の展開…………… 3
- 3 政治学の意義と効用…………… 4
- 4 本書の概要…………… 6

第 I 部 民主主義論

第 1 章 民主主義とポリアーキー 10

- 1 「デモス」(dēmos) と「クラティア」(kratia) の間に…………… 10
- 2 「ポリアーキー」論…………… 13
- 3 「自由化」の先行——イギリスの議会制民主主義…………… 15
- 4 イギリスにおける「平等化」の進展…………… 17
- 5 ポリアーキーへのドイツ、フランスの道…………… 19

第 2 章 資本主義と民主主義 23

- 1 資本主義の発達…………… 23
- 2 マルクス主義…………… 24
- 3 マルクスと資本主義…………… 26
- 4 イギリスの道…………… 28
- 5 アメリカの道…………… 30
- 6 ドイツの道…………… 33

第3章 民主化論 37

1 『第三の波』の周辺	37
2 ファシズムと全体主義	38
3 スペインにおける権威主義体制	41
4 ブラジルにおける官僚型権威主義体制	43
5 権威主義体制論	46

第II部 政治権力論

第4章 政治権力と近代国家 52

1 近代国家の起源	52
2 近代市民国家の成立	55
3 近代市民国家の基本原理	56
4 立憲主義の統治原理	57
5 近代資本制国家から福祉国家へ	60

第5章 現代国家における権力の諸相 64

1 現代国家の権力の諸相	64
2 現代資本主義国家における諸権力	66
3 経済的な力と政治的な力の相互力学	69
4 権力の次元	73
5 訓育と社会化	76

第6章 政治的社会化 79

1 子どもの「政治の世界」——フランスとアメリカの比較	79
2 政治的社会化	83
3 下位文化と政治的社会化	86
4 政治的社会化の仮説前提	89

第Ⅲ部 政治文化論

第7章 *The Civic Culture*の世界 94

- 1 政治文化論…………… 94
- 2 *The Civic Culture*の世界…………… 96
- 3 政治文化の主要素…………… 99
- 4 5か国の政治文化…………… 101
- 5 イタリア南部の政治文化…………… 103
- 6 *The Civic Culture*とcivic culture（市民文化）…………… 105

第8章 *The Civic Culture Revisited*の前後 108

- 1 *The Civic Culture*に対する批判…………… 108
- 2 *The Civic Culture Revisited*…………… 111
- 3 政策文化としての政治文化…………… 114
- 4 新しい政治文化…………… 116

第9章 社会資本 120

- 1 「社会資本」という地平…………… 120
- 2 『哲学する民主主義』のイタリア分析…………… 122
- 3 『孤独なボウリング』とアメリカ社会…………… 124
- 4 社会的ネットワークと信頼…………… 129
- 5 社会資本の効用の展望——市民的媒介制度の創出に向けて…………… 131

第Ⅳ部 政治参加論

第10章 政治過程のなかの政治参加 136

- 1 政治システムと政治参加…………… 136
- 2 政治参加の構造的要因…………… 140

3	政治参加の心理的要因	142
4	投票参加の変化	143

第11章 政治参加の理論的系譜 147

1	大衆デモクラシーの展開	147
2	草創期の投票参加研究	148
3	新たな投票参加像の模索	152
4	政治参加の国際比較研究	153
5	政治参加とデモクラシー	156

第12章 新しい政治参加 159

1	「疎外された有権者」	159
2	参加デモクラシーへ	161
3	参加デモクラシーからポリティカル・アクションへ	163
4	集団ベースの政治参加	164

終章 総括と展望 171

1	グローバリゼーションと政治経済システムの変容	171
2	市場グローバリゼーションの社会的インパクト	175
3	グローバリゼーションと市民社会の拡大	177
4	グローバリゼーションの影響下で市民社会を賦活する	179

おわりに

参考文献一覧

索引